

## ■みどり小学校の実践

### (1) 研究内容

「サッポロピリカコタンの活用」

～サッポロピリカコタンを訪問して行うアイヌ文化について学習～

### (2) 学習活動を通して育てたい力

アイヌ文化の理解を通して、自然との共生を意識したり、感謝の思いを大切にしたりする心や、自分とは異なる思いや文化を尊重し、自他を大切にする心を養う。

### (3) 実践の内容

「アイヌの人たちの生活と文化」(社会科：4年)

北海道の歴史と、アイヌの人たちが、自然との共生を意識し、感謝の心をもって生活していたことを学ぶ学習。この学習では、アイヌの文化を詳しく学ぶため、札幌市アイヌ文化交流センター(サッポロピリカコタン)を訪問して、アイヌの方々のお話を伺ったり、資料室で実際に使われていた道具などを見学したりすることができた。また、アイヌの生活から学ぶべき事を考えた。



《平成25年9月5日(木)札幌市アイヌ文化交流センター(サッポロピリカコタン)見学》

自然の物を使って遊んだり、道具を見たり触ったりすることで、アイヌの方々が、自然に感謝し、自然と共に生活しようとする意識をもっていたことに気付くことができた。例えば、「サケ」という魚は、北海道の子どもたちにとってはとても身近な魚ではあるが、アイヌの方々は、身を食べるだけではなく、皮を使って服にも利用していたことに気が付いた。また、アイヌ民族は私たちと共に生活していることに気付き、アイヌ文化の尊重や共生について考えるきっかけとなった。

### (4) 成果と課題

#### ① 成果

事前に社会科の資料で、アイヌの歴史や文化について学んではいたが、実際に物を見たり、アイヌの方にお話を伺ったりすることで、アイヌ文化を身近に感じ、北海道に住む自分たちとは切り離すことのできない文化であることを深く理解することができた。

#### ② 課題

アイヌ文化の尊重や、人権について気付くことはできたが、どのような思いを抱えてきたのかといった歴史までは十分に踏み込めない部分もあった。人権尊重・他尊感情については、この学習を出発点として、他の教科・領域でも続けて学習に取り組みたい。